

第45回さぬき高松まつり総おどり

代表者 竹内 康平 (経済学部 経営システム学科 3年)

1. 目的と概要

このプロジェクト事業は、高松祭り(8月12、13、14日)の3日あるうちの最終日(14日)に行われる総おどりに学生・教職員・付属学校とで参加するといったものだ。振り付けはダンス部に依頼しておこない、練習は平日・休日に2時間弱のものを数回行った。練習を通じてコミュニケーションをとり、知り合いでない人とも仲良くなり、一体となることを練習の目的として行った。本番では地域に香川大学の勢いを感じてもらおうと決め、行った。参加者はメールでのお知らせや口コミを通じて募り、100人を超える参加者が集まった。

2. 実施期間

平成22年7月上旬~8月14日

3. 成果の内容及びその分析・評価等

メールでのお知らせや口コミを通じて参加者は本学で120名ほど集まった。付属学校は保護者含め160名。合計280名の総おどり最大級の連ができた。

練習は教職員でも参加できるように考え、休日におこなったり、朝・昼と時間を変えておこなったりした。その結果、練習には職員も含めたくさん人が集まった。そのため練習に活気が出て1・2時間という練習時間はあっという間に過ぎていくように感じたとたくさんの方が口にした。さらには練習が終わっても、残って練習をする人や、遅れてきた人に練習を教えてあげる人や、その日に仲良くなった人と話して残っている人が見られた。また、振り付けは去年よりもシンプルなものに仕上がった。そのため最終的には全員が踊れるようになることができた。



本番は出発前にみんなで円陣を組み、強い結束を感じた。この参加を通じて互いに結束を生み、より勢いある香川大学へとなったと同時にその勢いを地域へとアピールできたのではないかと。惜しくもグランプリは逃したが、その証として『力強いで賞』を受賞！2年目にして初受賞をした。

4. この事業が本学や地域社会等に与えた影響



このプロジェクトを実施したことにより、香川大学を中心により強い一体感が生まれたのではないと思う。さらには賞をもらうことができ、周りへ頑張り・雰囲気伝わったのではないかと考える。地域と触れ合う機会が少ないので、こういった活動を通じて地域社会に参加し、地域へのアピールをもっとすべきだと思う。

5. 自分たちの学生生活に与えた影響や効果等

参加者たちからは「こんな大規模なイベントに参加するのは初めて。」「いろいろな人と知り合えて、仲良くなれた。」「あんなに声を出したり、動いたりするのは初めてで新しい自分に出会えた。」といった意見が出た。こういったイベントを通して、友達が増えたり、自分が変わっていったりして、学校生活がいい方向へと変わっていくと感じた。本番はもちろん、練習時間もすごく有意義な時間を過ごした。



6. 反省点・今後の抱負（計画）・感想等

今後この行事は学校行事として扱ってはどうかと思う。現在、学校行事は春の新歓祭や秋の大学祭といったように大きいものは数少ない。そこで夏にこのような大きなイベントをやってはどうか。実際また来年も参加したいという声が多数ある。しかし

このようなイベントは個人でやろうとすると大変な上、人数もなかなか集まりにくい
と思う。ぜひ毎年の恒例イベントに！

7. 実施メンバー

代表者 竹内康平（経済学部3年）

構成員 教職員20名

ダンス部、前HOPメンバーなど総勢100名

